



晩期合併症と長期フォローアップ



なぜ、治療が終わった後も外来通院が必悪なのですか？

治療終了後の外来通院の目的は、2つあります。ひとつめは、再発の有無の確認です。再発の可能性は時間の経過とともに減少していきます。ふたつめは、治療から長い時間の経過後に生じる合併症（晩期合併症）の有無の確認です。治療に関する合併症は長い時間が経過した後に生じる可能性があります。このような合併症を適切に診断し、対応するためにフォローアップ外来に受診することが必要です。

晩期合併症とは？

病気に対する治療が終了し数カ月、あるいは数年が経過してから生じる健康上の問題を晩期合併症と呼びます。

治療をした人はみんな晩期合併症になるのですか？

治療を受けて病気を克服した方々のすべてに深刻な晩期合併症の心配があるわけではありません。しかし、病気を克服した方々が治療終了後の長い時間の中で色々な問題が生じていることも事実です。

なぜ、治療から長い時間を経過した後に合併症を生じるのですか？

病気に対する治療は、悪い細胞だけでなく健康な細胞にも影響を与えますので、化学療法や放射線照射による健康な細胞へのダメージが合併症の症状につながる可能性があります。合併症を生じる時期は治療中、治療直後だけではなく、長い時間の経過後であることもあります。晩期合併症の種類・リスクは、治療内容（薬剤の種類・量・投与方法）、治療が行われた年齢などで異なります。

どのような晩期合併症を生じるのでしょうか？

成長・発達

骨にダメージを受けると身長・歯の伸びに影響を与えます。脳や下垂体がダメージを受けると聴力障害、学習障害が認められたり、成長や成熟に関わるホルモンの分泌が障害されたりします。

二次性徴

性成熟に影響を及ぼす臓器・部位にダメージを受けると二次性徴に影響を生じる可能性があります。

心臓・肺

病気に対する治療は心臓や肺のはたらきに影響を及ぼすことがあります。

腎臓

病気に対する治療は腎臓のはたらきに影響を及ぼすことがあります。

妊娠・出産

病気に対する治療は不妊のリスクを伴うものです。しかし、すべての方が不妊になるわけではありません。

別の病気の発症

まれに二次性腫瘍など、別の病気が発症することがあります。

自分の病気について行われた治療、将来の合併症のリスクについて情報を入手しましょう

病名、治療内容、将来の合併症のリスクを正しく理解することが大切です。外来にご相談ください。